

福島県 中学校長会 広報

- ・会長挨拶「平成30年度を振り返って」…… 1
- ・学校教育の今日的課題「経営者の役割」…… 2
- ・平成30年度県中学校長会の歩みと成果…… 3
- ・専門部会活動の概要(行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会) …… 3～5
- ・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告 …… 5
- ・福島県中学校教育70年記念式典開催 …… 6
- ・県研究協議会県中県南大会の概要 …… 6
- ・平成31年度県中学校長会主要行事予定 …… 7
- ・支会情報と特色ある経営(岩瀬・東西しらかわ・耶麻・双葉) …… 8～11
- ・随想「どんな時代になるのでしょうか」…… 12



平成30年度を振り返って

福島県中学校長会長 伊藤 隆幸
(福島市立福島第一中学校)

東日本大震災及び原発事故から「8年」が経過しようとしています。避難先で教育活動を継続している5校、休校2校とまだまだ厳しい状況が続いています。相双地区では再開後の生徒数の小規模環境への対応等の課題は山積みで学校は厳しい状況のままであり、それぞれの生徒の心のケアなどの支援策を講じながら、諸条件整備にあたっているところです。その中、昨年12月には、二本松市で教育活動にあっていた相双地区の伝統校浪江中学校が次年度以降休校になるとの報道がありました。再開された学校で教育活動にあたってこられた校長先生を始め、教職員の皆様に心より感謝を申し上げます。

そのような中において、本校長会の運営については、様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針の基に、各専門部会を中心に充実した活動を展開してまいりました。

今年度は10月12日には石川町において、福島県中学校教育70年記念式典を、来賓の皆様や多くの歴代会長様のご出席をいただき、盛大に開催することができました。東日本大震災以後初めての周年行事であり、これまでの歩みを振り返るとともに、この先の校長会の充実した歩みを進めるためのよい機会となりました。同日、第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会が、県内中学校長が一堂に会し開催されました。本県中学校教育の一層の充実発展に大きく寄与するものであり、今後、校長の大量退職期においてはその意義がますます重要な会になっていくと考えます。開催にあたりご尽力いただきました県中県南地区の校長先生方には、心からの感謝を申し上げます。

また、6月28・29日に開催された第68回東北地区中学校長会研究協議会山形大会・第1分科会、10月25・26日に開催された第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取(米子)大会第1分科会において、研究題「『社会に開かれた教育課程』の編成・実施」に基づいた研究をいわき支会の先生方に発表をいただきました。これまでの研究の成果を東北・全国に発信いただきましたこと、これまでのご労苦に対し御礼と感謝を申し上げます。

現在、本県の学校教育が当面する課題としては、学校再開、心身の健康、放射線教育、防災教育の推進に加え、新たな教育改革制度、働き方改革への対応など多岐にわたっております。また、平成31年の新学習指導要領完全実施に向けての対応にも取り組まなくてはなりません。

今後も、校長は、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことをさらに肝に銘じ、ふるさと福島の復興と進展に寄与すること、さらに、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、教育課程の効果的な運用と教育環境の整備を図りながら、子供たちに「生き抜く力」を身に付けさせることに努めることが肝要であります。

次年度も各支会と連携を図りながら各専門部会の積極的な取組を通して、諸課題の解決に向けて活動を推進してまいります。

終わりに、子供たちが郷土への誇りと自信、将来への「夢」と「志」をもち、本県の復興と発展を担う人材とし成長するために、「生き抜く力」そして「未来を切り拓く力」を育めるよう、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げますとともに、3月末をもってご退職なされる校長先生方のご功績に重ねて感謝を申し上げあいさついたします。

学校教育の今日的課題



—経営者の役割—

福島県中学校長会副会長 町田 壽章
(会津若松市立第六中学校)

私たちは、子供たちに、激しく変化する時代の中にあっても、自分を見つめて他と協力し合い、道を切り拓いてたくましく生きていく力を身に付けることを目的に日々教育活動にあたってきました。しかしながら、中学校の現場では、学力定着の課題や学校不適応、不登校生徒の出現・増加やいじめ、虐待、情報通信機器の使用に係る生徒指導の課題等が依然として多く残されています。学校の経営者としての自戒と反省を含めて、それらについて考えてみたいと思います。

社会は高度情報化・グローバル化を追い続け、正に現在は情報通信技術の高度な発達により、境界や枠組みを越えて世界の多くの国々や諸機関は様々な領域において容易にしかも短時間のうちに連携して行動することができるようになりました。しかし、そうした世の中の流れや急速な変化に対して上手く対応しきれていないために様々な歪みが生まれているという識者の見解を聞いたことがあります。学校現場での課題についても、同様なことが言えます。例えば、学力向上の問題。活用力育成が叫ばれて久しくなりますが、日々の授業は旧態依然ではなかったでしょうか。未だに、教師主導の授業ではなかったでしょうか。また、情報通信機器の所持により、十数年前には思いもよらなかったような極めて大きなリスクを生徒が背負わなければならない状況が生まれています。その予防的処置は学校現場では限られ、保護者の理解と協力が必須な課題ですが、一度問題が起きれば、その対処に非常に多くの時間と労力を割かれることとなります。

学校での課題については、校長が常にアンテナを高くして自校の課題に目を向けてその解決方法を考えて教職員に示し、着実に実践を積み重ねることが不可欠です。しかし、解決の糸口が学校以外にもあるとすれば、積極的にそれを保護者や地

域に投げかけ、同じ考え方のもとで地域全体で子供たちを育てるという「地域の中の学校」という本来の姿での取組も経験上効果的であると思います。

道徳が教科となり、その評価についても行われることとなります。答えが一つではない課題に向き合い、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、学習・指導方法を工夫することや生徒の内面の変化・成長を伝える評価の方法を設定することなどがが必要です。これは、我々教員にとっては大きな変革ですが、教職員が前向きに捉えその目的が達成できるよう、校長のリーダーシップによる円滑なスタートが求められます。

教職員の働き方に注目が集まり、その多忙化解消のための取組が進められています。各教育委員会が示した内容に加えて、各校でも工夫しながら取り組んでいます。しかし、「やらなければならないことは変わらないのに、勤務の時間だけを縮減する。」というのは、無理難題です。周囲から寄せられる学校への期待のほどは理解できますが、様々な要請を上手にコントロールすることも校長に課せられた大きな仕事であると考えます。

また、後進の育成も重要な課題です。当地区では、管理職を目指す教員が減ってきており、近い将来、多くの管理職を他地区の方に担っていただくことにならざるを得ない状況であるという話も耳にしました。私自身、「あんな校長先生になりたいな」と思ってもらえる姿を教職員に示してこれなかったことを自戒するばかりですが、意欲溢れる教職員を育てることが急務です。

この一年、県中学校長会の役員として貴重な経験をさせていただきました。感謝申し上げます。本会の益々の発展と一日も早い本県の復興、県内各中学校の生徒の活躍をお祈りいたします。

平成30年度

県中学校長会の歩みと成果



福島県中学校長会事務局長 佐藤 晃
(福島市立福島第四中学校)

平成30年4月25日に第68回福島県中学校長会総会を開催し、伊藤隆幸会長のもと、15支会、220名の校長が集い、新体制により今年度の活動がスタートしました。

「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」を方針に掲げ、各専門部会の活動を中心に、各支会の現状を踏まえながら、組織的な取組を推進してきました。

また、7月31日、8月1日には、全日本中学校長会山本聖志会長をはじめ、4名の役員が来県され、東日本大震災から7年を経過した本県の学校の状況と課題、防災教育の在り方等について、情報交換を行うとともに、旧二本松市立針道小学校の校舎を借りて、学校を再開した浪江町立浪江中学校と、地元で再開した川俣町立山木屋小中学校を視察しました。再開までの経緯と現状を見聞し、再開後の生徒数が極めて少ないことや、風評払拭と風化防止への対応等、課題が山積している

ことを実感しました。

さらに、10月12日には、福島県中学校教育70年記念式典及び第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会を開催しました。式典においては、中学校教育70年の歩みを振り返るとともに、本会の充実・発展にご尽力いただいた7名の歴代会長様に感謝状を贈呈しました。また、第42代会長で、現郡山市教育委員会教育長小野義明様より「中学校教育70年を迎えて校長会に期待すること」と題してご講話をいただき、学校経営や本会の活動等について、想いを新たにすることができました。午後の研究協議会では、各支部の組織的な研究の成果を発表し合い、協議を通して、さらに深め合うことができました。県中県南大会実行委員会の校長先生方には、大変お世話になりました。

各専門部会におきましては、部会長及び幹事、各支会部会長の皆様のご尽力により、充実した活動が展開され、大きな成果を収めることができました。改めまして、関係各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題解決に向けて組織的な対策活動に取り組みました。調査内容については、調査項目を検討し要望活動に反映できるように整理統合しました。

1 活動の重点

- 当面する重要課題の調査研究と課題解決
- 教育諸条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善

2 調査研究活動

- (1) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (2) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況調査
- (3) 特別調査：大震災・原発事故の影響に係る調査

3 要望活動

小・中の古関会長、伊藤会長を中心とする要望団を組織し、9月に要望活動を行いました。

(1) 面談(要望内容説明)

- ① 福島県人事委員会
- ② 県議会議員政党等

(2) 要望書届け

- ① 福島県市長会、町村長会
- ② 福島県町村議会議長会、市議会議長会
- ③ 市町村教育委員会、都市教育長会、町村教育長会の代表機関等

(3) 主要要望事項

- ① 教職員の加配について
- ② SC及びSSW_rの拡大配置について
- ③ 学級編制基準や教職員定数改善について
- ④ 人材確保のための処遇改善について

4 教育懇談等

関係機関と懇談し現状を説明しました。

- (1) 福島県公立学校退職校長会(7月13日)
- (2) 福島県教育庁関係者(8月22日)

(行財政部会長 神野 興)

● 研究部会 ●

1 共通理解に基づく共同研究の推進

研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を指標とした8小主題について、「研究の手引き」を活用しながら、各支会・各学校の実態に即して研究を推進しました。

第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会を開催し、小主題毎の8分科会を設け、発表と協議を通し、研究の深化を図るとともに、その成果を共有しました。

2 研究集録の編集及び「研究の手引き」の作成

研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、各支会における研究の成果を収めた「研究集録」を刊行し、全会員に配付する中でその成果を共有することができました。

平成30年度の「研究の手引き」を作成し、研究の推進について発信することができました。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

東北地区中山形大会及び全日中鳥取（米子）大会において、第1分科会（教育課程）でいわき支会が研究の成果を発表し、それをもとに有意義な研究協議が進められ、他県の研究の動向等の情報収集にあたることができました。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

震災後8年を経過した福島の現状を記録し累積するために、研究集録の中に、「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を継続して掲載し、双葉支会の抱える課題等を全会員で共有しました。

（研究部会長 安齋 康仁）

● 進路指導部会 ●

1 「生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点にたった進路指導の充実

各支会において、キャリア教育の視点を重視し、地域の実情に即した進路指導の推進を図るとともに、部会長会・代表部会長会で協議・情報交換を行い進路指導の体制等の改善・充実を図りました。

2 高等学校入学者選抜方法改善への対応と連携

「進路指導に関する調査」の集計結果をもとに、県立高等学校入学者選抜事務調整会議で提案事項について意見を述べました。

また、「調査書記入用略称一覧」の変更点や加

筆の部分を確認にし、福島県中学校長会のホームページに掲載しました。高等学校と共通理解を図るため、閲覧ができるよう全高等学校・私立中学校に専用のパスワードを付与し高等学校・私立中学校と共通理解を図りました。

3 「中学生生活と進路」〈福島県版〉の編集

副読本「中学生生活と進路」の部分改訂にあたり、全国版と県版の内容の整合性を図るとともに、生徒の実態や本県の状況に応じた内容となるように改善を加えました。写真やイラスト、図版、統計資料を最新のものに差し替えるとともに、全学年に新たな入学者選抜制度について調べるページを作成しました。

4 進路指導に関する諸調査の実施

全県一斉の「進路希望動向調査」を2回実施し、福島県中学校長会のホームページに掲載して活用を図りました。来年度に向けて県立高等学校の新たな入試制度における前期入試の特色選抜・連携型選抜と一般選抜について区分を設けて集計できるよう検討を始めました。また、平成30年度末実施の「進路指導に関する調査」の調査項目について見直しを図りました。

（進路指導部会長 石川 幸男）

● 生徒指導部会 ●

1 高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした集団づくり

各支会において、生徒指導の充実を図るための基盤づくりが強化されるとともに、生徒指導主事協議会や学警連等を通して、生徒指導の推進役としての意識と指導スキルの向上に努めました。

2 震災、原発事故等にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止

反社会的行為に関しては、全県的に落ち着いた状況にありますが、不登校の発生に関しては歯止めがかけられませんでした。

いじめに関しては、認知件数が増加し、早期解決に努める現場の姿勢を感じ取ることができました。虐待に関しては、種類別の件数や相談する関係機関について把握することができました。

「インターネット等利用に関する生徒へのアンケート」では、スマホ所持率の増加やインターネット使用時間の増加に伴い、各学校で対応に苦慮している状況が明らかとなりました。今後も実態を把握し、情報モラル教育の一層の充実を図る

とともに、効果的な啓発活動に努めていきます。

特別支援教育の充実を図るため、小・中生徒指導部(会)で講演会を開催しました。合理的配慮や対応スキルについて理解が深まりました。

3 小学校及び高等学校、関係機関等との連携

小学校、地域、関係団体との連携が進められ、好ましい生活習慣の定着に効果をあげています。また、発達障がいやインターネット利用等の今日的な課題に関する連携も年々強化されるとともに、関係機関の協力を得ながら、高等学校との連携を図る新たな指導体制が進んでいます。

4 生徒手帳の編集、刊行

編集委員を中心に編集、刊行することができました。(生徒指導部会長 渡辺 康弘)

● 広報部会 ●

7月と3月に広報誌「福島県中学校長会広報」を発行し、本会や各支会の活動紹介及び関係団体等の活動概要の報告を行いました。今年度はホームページ掲載に加え、紙媒体の配付を行いました。

中学校長会ホームページの更新と維持・管理を行い、適切な運用を図りました。

【会報の主な編集内容】

1 第160号(7月1日発行)

- 会長就任あいさつ (伊藤隆幸会長)
- 県中学校長会総会の概要及び組織
- 学校教育の今日的課題 (梅田善幸副会長)
- 県中学校長会の活動と運営(佐藤晃事務局長)
- 各専門部活動の概要 (各専門部会長)
- 第69回全日中総会の概要
- 支会情報と特色ある学校経営
福島・石川・南会津・いわき

- 新会員紹介及び新会員の声
- 随想 (阿部博副会長)

2 第161号(3月1日発行)

- 平成30年度を振り返って (伊藤隆幸会長)
- 学校教育の今日的課題 (町田壽章副会長)
- 平成30年度県中学校長会の歩みと成果
(佐藤晃事務局長)
- 専門部活動の概要 (各専門部会長)
- 県小中合同理事会・中学校長会理事会報告
- 県中学校教育70年記念式典
県研究協議会県中県南大会の概要
- 平成31年度主要行事予定
- 第69回東北地区中研究協議会の概要

- 支会情報と特色ある学校経営
岩瀬・東西しらかわ・耶麻・双葉
- 随想 (小針伸一副会長)
(広報部会長 西牧 伸弘)

● 小・中学校合同理事会報告 ●

本年度最後の小・中学校合同理事会が2月20日(水)に飯坂あづま荘で開催されました。

※議長：松井義孝(安達支会) 常任理事
荒木幸子(双葉支会) 常任理事

【報告】

- 1 平成30年度退職役員感謝状贈呈式の件
- 2 平成30年度退職役員感謝会の件

【協議】

- 1 平成31年度県小・中学校長会合同開会式並びに小中理事会、総会の運営について
 - 期日: 平成31年4月17日(水)
 - 会場: 福島県教育会館
 - 2 平成31年度主要行事について
 - 3 平成31年度教職員人事の反省について
 - 4 平成31年度行財政部(会)の調査について
- ※ 上記案件について提案の通り承認されました。
- ◇ 退職役員感謝状贈呈式

退職役員は、小学校38名、中学校22名で、鈴木宣雄小学校長会長代行、堀田 隆中学校長会長代行より感謝状が手渡されました。

● 中学校理事会報告 ●

第5回中学校長会理事会は、2月20日(水)・21日(木)の両日にわたり、飯坂あづま荘で開催されました。

【報告】

- 1 全日中理事会の件
- 2 平成30年度会務・会議報告の件
- 3 県中学校長会共催、後援承認行事の件

【協議】

- 1 平成30年事業報告について
 - 2 平成30年度会計執行状況について
 - 3 平成30年度関係団体との連携について
 - 4 平成31年度事業計画(案)について
 - 5 平成31年度行事予定(案)について
 - 6 平成31年度第1回理事会の運営について
 - 7 平成31年度第69回総会の運営について
- ※ 上記案件について、提案の通り了承されました。

福島県中学校教育70年記念式典開催

福島県中学校教育70年記念式典が、10月12日(金)母畑温泉八幡屋(石川町)で第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会に先立ち、挙行されました。平成19年度研究協議会二本松大会のときに挙行された60年記念式典以来のことです。式典は次のような流れで進められました。

- | | | |
|---|------------|-----------------|
| 1 | 開式のことば | 梅田善幸副会長 |
| 2 | 国歌斉唱 | |
| 3 | 会長あいさつ | 伊藤隆幸会長 |
| 4 | 来賓祝辞 | 県教育長 鈴木淳一様 |
| 5 | 来賓紹介 | |
| 6 | 感謝状贈呈 | |
| 7 | 歴代会長代表あいさつ | 大竹 明様 |
| 8 | 講 話 | 郡山市教委会教育長 小野義明様 |
| 9 | 閉式のことば | 町田壽章副会長 |

伊藤隆幸会長があいさつし、鈴木淳一県教育長様よりご祝辞をいただきました。その後、伊藤隆幸会長より、第41代から第47代までの歴代会長に感謝状が贈呈されました。感謝状贈呈者は次の方々です。

- | | | |
|--------|-----|-------|
| 第41代会長 | 大 竹 | 明 様 |
| 第42代会長 | 小 野 | 義 明 様 |
| 第43代会長 | 鈴 木 | 昭 雄 様 |
| 第44代会長 | 根 本 | 真 様 |
| 第45代会長 | 君 島 | 勇 吉 様 |
| 第46代会長 | 菅 野 | 善 昌 様 |
| 第47代会長 | 福 地 | 憲 司 様 |

その後、歴代会長を代表して、大竹 明様からごあいさつをいただき、後輩に託す熱い思いが伝わってきました。

講話は、第42代の本会の会長として、平成21年10月、郡山市で開催されました第60回全日中研究協議会福島大会兼第59回東北地区中学校長会研究協議会を主宰され、現在、郡山市教育委員会教育長を務められております、小野義明様から「中学校教育70年を迎えて、校長会に期待すること～新学習指導要領を見据えた学校経営～」と題して、具体的にお話をいただきました。本会が積み上げてきた伝統の重みを感じる厳粛な雰囲気の中で執り行われた式典となりました。



● 県研究協議会県中県南大会の概要 ●

第46回福島県中学校長会研究協議会県中県南大会が、10月12日(金)母畑温泉八幡屋(石川町)で開催されました。隔年で開催の研究協議会も平成19年度に二本松大会が開催されて以降、平成21年度は郡山での全日中福島大会、平成23年度は震災のため中止、翌年24年度は特別研究協議会として会津で実施、平成26年度は福島で東北地区中福島大

会という経緯から、福島県単独で開催されるのは、一昨年度のいわき大会に引き続いての開催となりました。

今年度は、平成27年度からの研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」に基づき、各支会の研究分担のみが、平成31年度からの研究を見通した新たな分担による、1年限りの研究となりました。

開会式では、伊藤隆幸会長より校長の大量退職

期に入った現在、改めて校長会研究協議会のもつ意義や研究主題にある「生き抜く」ことの意味を問い質し、現在大きく変化しているわが国の社会が抱える課題を正しく把握し、その解決に向けて校長の資質・能力を高めることの重要性についてのお話がありました。続いて、県中県南大会実行委員会実行委員長(代理 小玉陽彦実行副委員長)、福島県教育委員会教育長(代理 福島県教育庁義務教育課佐藤秀美参事兼義務教育課長)よりあいさつを、そして、開催町の石川町長塩田金次郎様よりご祝辞をいただきました。

開会式後、昼食、休憩を挟んで、午後から8つの研究小主題に基づいた分科会に分かれて研究協議を行いました。新たな研究小主題の分担にも関わらず、各発表支会の質の高い研究発表と熱心な研究協議を通して、生徒のこれからの社会を生き抜く力の育成に向け、校長としての在り方、覚悟を確認できた実り多い研究協議会となりました。今大会の分科会と発表支会は次の通りです。

- 第1小主題「教育課程」 石川・いわき支会
- 第2小主題「学習指導」 郡山・東西しらかわ支会
- 第3小主題「道德教育」 安達・耶麻支会
- 第4小主題「健康・安全教育」 福島・双葉支会
- 第5小主題「進路指導」 田村支会
- 第6小主題「生徒指導」 伊達・北会津・相馬支会
- 第7小主題「教職員研修」 岩瀬・南会津支会
- 第8小主題「経営課題」 両沼・いわき支会

次年度からは、新研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」に基づく研究が始まります。今年度の県中県南大会の研究の成果を踏まえ、新しい視点から学校経営の在り方について模索し、校長の資質・能力の向上を図っていくことが期待されます。



平成31年度県中学校長会主要行事予定

〔県、東北地区中、全日中関係〕

月	日	県 関 係	東北地区中・全日中関係
4	11 17	合同事務局会 総会・理事会	
5	10 16 20 21 22 27 30	行財政部合同部会長会 研究部会長会 生徒指導部会長会 合同事務局会 進路指導部会長会	全日中理事会 全日中第70回総会(～23)
6	7 14 27 27	合同理事会・理事会	東北地区中副会長会 東北地区中理事会 東北地区中秋田大会(～28)
7	11	行財政部合同代表部会長会 ・広報第162号発行	
8	5 19	合同事務局会 合同理事会・理事会	
9		要望活動	
10	23 24 29	進路指導部会長会	全日中理事会 全日中群馬大会(～25)
11	14 15 18	研究部会長会 生徒指導合同部会長会 合同事務局会	
12	3	合同理事会・理事会	
1	17 23 24 28 31	研究部代表部会長会 進路指導部代表部会長会 生徒指導部代表部会長会	全日中理事会 東北地区中副会長会・理事 会・事務局会
2	5 6 19	行財政部合同部会長会 合同事務局会 合同理事会・理事会(～20)	
3	17	・広報163号発行 会計監査	

●第69回東北地区中研究協議会の概要●

- 1 大会主題
『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
- 2 期 日
□ ○○元年6月27日(木)・28日(金)
第1日目「開会式」「全日中報告」
第2日目「研究協議会(分科会)」
「記念講演」「閉会式」
- 3 会 場
□ 秋田市文化会館
- 4 記念講演
□ 講師 山川 三太 氏
演題 「秋田の偉人 石井漢と土方巽」

支会情報と特色ある経営

岩 瀬

岩瀬支会の活動



岩瀬支会長 長場 壮夫
(須賀川市立第一中学校)

岩瀬支会は、須賀川市10校、鏡石町1校、天栄村2校の3市町村13校で組織されています。「岩瀬の校長会は一枚岩」を合い言葉に13人の会員が助け合いながら楽しく活動しております。特に今年度は、「県中学校長会研究協議会県中県南大会」の事務局校として、石川支会と協力して成功裏に開催することができました。各支会の御協力に感謝しております。

岩瀬支会の活動を紹介します。

1 「岩瀬地区校長会中学校部会」

岩瀬地区小・中学校長協議会の研究協議と服務倫理委員会のとに、中学校部会を開催し、各部会の協議、情報交換、諸連絡等を年間6回開催しています。懇親会は年間4回実施しています。

2 「学校経営研究会」

6月と10月の年2回、特色ある会場を選定し、教育講演会を県中教育事務所長さんと地元の講師にお願いしています。課題研修会と服務倫理委員会のと、先輩校長の体験発表を年度末で退職予定の校長にお願いし、大変好評であります。

3 「中・高連絡協議会」

6月には、岩瀬地区の県立高校及び特別支援学校並びに中学校の校長と生徒指導主事が一堂に会し、各学校の生徒指導上の課題を共有し、情報交換をしながら解決策を話し合っています。11月には、県立高校及び特別支援学校の校長6名が、中学校長と進路指導主事に対して学校説明会を行い、その後、中高校長は懇親会を実施しています。

4 「新任校長研修会」

新任と転入の校長に対して、年3回会長と副会長が岩瀬の紹介や校長としての心構えなどを講義・講話形式で実施しています。

5 「岩瀬地区教職教養講座」

校長・教頭昇任考査対策として、指導主事や校長が講師となり、夏季休業中3日間実施し、面接指導も地教委と校長会で実施しています。

《学校紹介》

「地域の宝」を育てる学校

須賀川市立長沼中学校

本校は、須賀川市西部・旧長沼町を学区とする、豊かな自然と地域の人々のぬくもりにあふれた、全校生147名の学校です。

平成17年の町村合併の前から長沼町内にある幼・小・中・高が「4校1園連携事業」という組織を立ち上げ、長沼で生まれ育つ子供たちを「地域の宝」として、保護者・地域とともに特色ある教育を展開しています。

今回は、特色ある地域行事の1つとして毎年9月に開催する「長沼まつり」を紹介します。今から35年前に青森のねぶた・ねぶたにヒントを得て始まったこの祭りでは、大人はもちろん子供たちも祭りの主役として参加します。長沼中では3年生が巨大なねぶたを図柄から制作し、そのねぶたとともに「ハネト」となって長沼のメインストリートを跳ね踊ります。地域の皆さんはもちろん、この祭りを楽しみにして集まる観光客が、その本格的なねぶたの美しさと生徒たちのはじける笑顔に感動して下さいます。



生徒たちは祭り本番での感動体験の他に、そこまでの過程として、ねぶた制作について地域の方から3ヶ月ほど指導を受け、体育の授業では3年間かけて3種類の踊りを習得し、祭りの当日には商工会の方々と一緒に会場づくりに汗を流すなど、地域の一員として祭りを創りあげていきます。この経験を通して、生徒たちは長沼の一員としてアイデンティティーを獲得していきます。

自慢になってしまいますが、今年度箱根駅伝等で活躍している東洋大の相澤晃選手は本校の卒業生です。彼も長沼で育ち長沼で長距離走を始め、長沼まつりを盛り上げた「地域の宝」の一人なのです。

(校長 小貫 崇明)

東西
しらかわ

東西しらかわ支会の活動

東西しらかわ支会長 永山 美雄
(棚倉町立棚倉中学校)



東西しらかわ支会では、本年度も下記の予定された研修会を予定どおり実施することができました。残すは2月22日(金)に予定された、第5回研修会を残すのみとなっております。1回目の初顔合わせ、4回目の年末、2月の最終研修会では懇親会も実施しております。研修会も含めて、普段は孤独に仕事をしている校長先生方の、憩いの場となるように配慮しています。

研修会の中では、全国大会や東北大会の参加者代表による報告や、各専門部からの報告、そして何よりも大切な情報交換の場では、学校経営するうえでの悩みや相談事を、気軽に話ができるような雰囲気になっています。また、生徒指導や教職員のサービス管理の情報交換も大切にしています。

【平成30年度の研修会】

第1回 5月9日(水) 表郷庁舎

第2回 7月11日(水) 棚倉中学校

※ この日の午後からは、東西しらかわの小中学校長が一堂に会し、県教育センターの目黒先生によるスマホやゲームの依存の実態についてお話を聞くことができました。

第3回 10月9日(火) 表郷庁舎

第4回 12月5日(水) 表郷庁舎

第5回 2月22日(金) 表郷中学校

東西しらかわ支会には18校の中学校がありますが、どの学校も生徒指導面で大変落ち着いており、学力の向上を主眼に努力していることがあげられます。しかし、全国的なスマホやゲームの依存の問題や、保護者の家庭教育の問題については難しい課題が多く、情報交換でよく話題にされています。

東西しらかわ中学校長会では、県南の中学生の健全な育成のため、今後も校長自らが研修会をとおして研鑽を続けていきたいと思っております。

《学校紹介》

一歩共有(活用力・無の時間・SST)

西郷村立西郷第一中学校

本校は、全校生294名、学級数13学級、職員数29名で、阿武隈川沿いに校舎があります。

学習面では、日々の授業において3つのキーワードを掲げ指導にあたっています。

「本物志向」：実物やICT等を有効活用し、視覚に訴える資料の提示。

「概念崩し」：生活経験を通してや既習知識とでもっている概念を崩す事実を提示し、疑問や矛盾をもたせる。

「驚きと笑い」：驚きや笑いを与えることにより、知的好奇心を揺さぶり、展開へ入っていく。

体力の維持向上面では、教育課程を変更しないでの実践活動の充実を図っています。

【SST (スポーツスタディタイム) の設定】

内容	スポーツ	スタディ
目的	年間体力向上と全種目全国平均上回る	学習習慣の確立
期間	4月～6月→2・3年 7月～3月→1・2年	4月～6月→1年 7月～3月→3年
場所	体育館	視聴覚室 (100名収容)
時間	10分間	10分間
6校時終了後	授業終了 15:35 短学活 15:40～15:55 清掃・SST 16:00～16:10 ※日替交換男女別清掃	



スポーツ活動

いかに社会が変化しようと、時代の要請と先を見据えた「深い学び」となるよう、今後も全職員が「一歩共有」しながら、日々の研鑽に努めていく所存です。
(校長 星 喜博)

耶 麻

耶麻支会の活動

耶麻支会長 星 裕次郎
(喜多方市立塩川中学校)



耶麻支会は喜多方市、西会津町、北塩原村の計10校で組織されています。他の支会同様に、耶麻支会でも毎年70名程(約5%)の急

激な生徒の減少により、さまざまな面で活動に支障が生じていますが、工夫しながら活気を失うことのないよう努力しているところです。

さて、耶麻支会は管内の小学校20校で組織する耶麻地区小学校長会と密接に連携し、「耶麻地区小中学校長会連絡協議会」を組織して、一体となって活動しています。今年度は「確かな連携・共通理解のもと、切磋琢磨する校長会～学校力・教師力を高めるために～」をスローガンに、以下の6つの視点で年間4回の研修に取り組んできました。

- (1) 学力の向上
- (2) 小・中学校の連携
- (3) 特別支援教育の充実
- (4) 人材育成
- (5) 新学習指導要領への円滑な移行
- (6) 多忙化解消

特に第2回研修会では、「心の窓」(向学館)著者の塚田昌弘氏からリーダーとして備えるべき五省をはじめ、貴重なお話をいただきました。さらに第3回では「がんばる学校応援プランで目指す、福島未来」と題し、県教育庁教育総務課長の高橋洋平氏から応援プランに込めた思いや本会への期待について示唆に富むお話をいただきました。

また、今年度は10月に県PTA研究大会喜多方大会の開催やJRC県指導者研修会及び研究推進校の発表などが耶麻地区で開催されましたが、本校長会も全面的に協力・分担し、多くの成果を上げることができました。

さらに、今年度の研究大会では第3分科会(道徳教育)において特別の教科「道徳」の確実な実施・充実のための校長の関わりについて、研究初年度でしたが各校でさまざまな実践が行われ、その一端を発表することができ、ほっとしたところです。

今後も新任者2名を含む10名の校長で力を合わせ、小学校と連携しながらさまざまな教育課題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

《学校紹介》

「笑いの力を教育に」-漫才講座を通して-

喜多方市立高郷中学校

「笑育(わらいく)」の言葉で徐々に認知されつつある「漫才講座」を実施しました。この取組は、NPO法人「会津エンジン」がキャリア教育の一環として行っているもので、耶麻地区の中学校としては初めての導入でした。

講座は、吉本興業の福島県住みます芸人「ぺんぎんナッツ」さんを講師として、2時間の講義と演習を5回、計10時間の計画で、漫才のネタ作りとその発表を行うものです。2～3名のチームを組んだ生徒たちは、ネタ作りの基本的な方法について学んだ後、チームごとに話し合いながら漫才作りを行いました。「笑い」の要素を取り込みながらゼロからネタを作る作業は思いの外難しい作業ですが、生徒たちは知恵を出し合い、創意工夫を凝らし、一生懸命考えました。普段は、おとなしくて、自分を表現することが苦手な生徒も、いつしかその雰囲気には溶け込み、漫才が完成した時の顔には一様に達成感が表れていました。

アイデアを生み出す発想力と創造力。相方や講師の先生に自分の意図を伝え合うコミュニケーション力。話を面白くする編集力と構成力。困難や課題を解決する力。そして、ネタをより面白く発表する表現力とプレゼンテーション力、さらには、人に笑顔を届ける喜びと自己有用感等、生徒がこの10時間の講座を通して得たものは、とても大きいと感じています。

講座を締めくくる「K(喜多方)-1グランプリ」はTV番組さながらの本格的な演出で、会場は笑い感動にあふれ、温かで心地よい一体感に満たされました。



ネタ作りに励む生徒達

(校長 木野 秀樹)

双葉

双葉支会の活動



双葉支会長 荒木 幸子
(双葉郡楡葉町立楡葉中学校)

まずはじめに、震災以降多くの会員の皆様のご支援に衷心より感謝申し上げます。双葉支会は8町村、計12校で組織されています。

原発事故避難のため2校が今も臨時休業、校長は兼務となっており、会員数は10名です。当支会は原発事故の影響を多大に受けました。学校は昨年までに川内村・広野町・楡葉町の3校が本来の町に戻り、今年度は、葛尾村及び富岡町の一部が戻り、なみえ創成中が開校しました。しかし、未だ浪江町の2校は臨時休業中、双葉町はいわき市、大熊町は会津若松市、浪江町は二本松市、富岡町の一部は三春町に移転したまま仮設校舎や借用施設で教育活動を行っています。会員は県北、県中、会津、いわき、相双に点在し、会合を持つことも困難です。しかし「双葉は一つ」と強い結束のもと、相互に連携し、学校の復興を目指して活動しています。

主な活動は、中学校独自で行う年4回の研修会、小中連絡協議会研修会が年2回、相馬支会と相双高等学校長会と連携した相双地区中高連絡協議会を年1回開催して、情報交換や地区・支部の課題解決に向けた研修を深めています。また、本年度は7年間活動を中止していた中学校教育研究会を校長会主導で再開し、双葉支部英語弁論大会、双葉郡中学校音楽祭第3部創作・造形作品秀作審査会を7年ぶりに実施することができました。

震災から約8年が経過しようとしています、これからも困難な状況は続き、生徒数の激減、生徒の心身への影響がさらに発現してくることは十分予想されます。反面、震災前から在籍する校長は転退職し、双葉の子供の心情や、震災前、震災、復興の道筋を知っている校長が少なくなっています。だからこそ、校長会での研修は双葉を知り双葉の子供を育てる上で必要不可欠なものです。今後ともご支援ご指導を宜しく願います。

《学校紹介》

ただいま ふるさと葛尾村！

葛尾村立葛尾中学校

本校は、4月6日に葛尾小学校で再開式を行い、葛尾小学校と一緒に葛尾村に戻り学校を再開しました。東日本大震災後、2年間の臨時休業、三春町での葛尾中学校三春校開校を経て、今年度、ふるさと葛尾村での学校再開に至りました。多くの方々からのご支援のおかげです。

今年度、村の人々が来校する行事のあいさつでは、「ただいま」と大きな声で、生徒も職員も何回叫んだでしょう。生徒数は11名と少人数で、その少人数の良さを活かした教育活動をしています。本校の特色ある主な取組は以下の通りです。

- 1 学力・体力の向上のために
 - (1) 生徒一人一人の学習の悩みを解決するための学習カウンセリングの定期的実施
 - (2) iPadを家庭に持ち帰らせるなどのICT活用による各種検定合格指導
 - (3) 民間塾講師による放課後週5日、校舎内での村営塾実施
 - (4) 生徒一人一人の体組成分析や体力の「見える化」を活用した個人目標の設定と体力向上の検証と実践
- 2 心の教育の推進・ふるさと葛尾のために
 - (1) 全校合同道徳授業の定期的な実施
 - (2) 総合的な学習の時間を活用した「双葉郡ふるさと創造学」の取組
 - (3) ホームステイと現地ミドルスクールでの授業参加を主とした米国シアトルへの1週間の修学旅行
 - (4) 幼小中が同一敷地内にあることを活用した行事の共同実施と職員の活用



5月に快晴のもと、葛尾村に戻り、はじめて実施した幼・小・中及び村民の合同運動会から中学校の玉入れの様子

(校長 佐藤 武)

平成31年、天皇陛下の退位にともない新元号による新しい時代を迎えようとしています。平成も最後、自分も退職と思うと過去を思い出します。

私は、昭和56年、耶麻郡の全校生徒27名、県内中学校では分校1校を含め3校しかないへき地3級地の中学校で教職をスタートさせました。教職員は、校長、教頭、教諭、主事を入れて9名、一人で3名を見ればいいのだから、こんなに恵まれた学校はないと、校長先生はよく話していましたが、本当に素直で一生涯懸命な子供たちとすばらしい教職員に囲まれて、充実した毎日を過ごすことができました。冬は氷点下10度以下の冷凍庫、4月になって校庭の回旋塔や高鉄棒の支柱が徐々に顔を出すという厳しい自然環境でしたが、いつも生徒と一緒に、中体連のバレーボールやスキーでも、県や全国大会の経験もできました。

校務以外にも、「今年は1981年、毎日眺めている標高1981mのあの西大嶺に登るぞ。」「会津に勤めたら広い会津を知りなさい。檜枝岐に行くぞ」と、教頭先生にはあちこち連れ回していただきました。同僚とも今日は部活休みだから急遽遠足の下見だと、磐梯登山や雄国沼にジャージで出かけました。3年が経ち、もう少しこの子たちとこの学校でと希望しましたが、早く転出したい者も多いのだからと却下。こんな経験はもうできない、ここは『特別な学校』と言い聞かせ異動しました。

2校目は、県南で2番目に大きな全校生800名を超える大規模校でした。その年異動してきた教職員は15名、養護教諭1名を除き残り14名は男性でした。当時の中学校教員の男女比率からしても不思議でしたが、その後の勤務ですぐに理解しました。尊敬する先輩が、「虚しい。長年築き上げてきたプライドが崩されていく。」とこぼしましたが、自分にはそんな実績はなく、いつか自分もそんなふうになってきたことに自信とプライドがもてるようになりたいと、毎日が戦いでした。前任校とは違った意味でここは『特別な学校』と自分自身に言い聞かせていました。3年目、1年生を担当し、この子たちをじっくり育て立派に卒業させたいと密かに思っていたのですが、大学院研修の話があがりました。当時の校長先生に、「勉強が足りないから勉強しなさい」と言っているのだ。」と励ま

れ？長男が生まれたばかりでしたが、単身、上越に行きました。各県からの派遣や自ら休職してまで学びたいという年齢や経歴の異なる人との出会いは刺激的であり、得るもの大でしたが、目的意識の希薄さと生来の怠惰な性格、力不足がたたり、どこまで研修が深まったか、成果を還元できたのかは、はなはだ疑問であります。

平成元年、研修を終えて現任校に戻ると校務分掌は、3年学級担任で副主任、研修主任と伝えられました。え！前回3学年を担当したときは、最も年下だったのに、2年間学校を離れたら教師も生徒も変わり新しい学校と同じなのに3年担任で副主任？改めて学年スタッフを見れば、主任は同じ年の30歳、担任はベテラン女性1人と他6名は20代の男性でした。校長先生曰く、「若者が頑張らずして平成の学校はない『平成の改革だ！』」？若い学年団、紆余曲折もありましたが何とか無事卒業させ、よし今度と思ったのも東の間、通算6年で異動対象、県北の附属中学校へ異動と言われました。これまで目の前の生徒に向き合い、自分なりに精一杯努力はしてきましたが、教科指導での理論や実践には自信がなく、「別居解消できたばかりです。妻と2人の子が」とささやかな抵抗を試みましたが、「勉強しなさいと言うこと、

勤め人に転勤は当たり前」と一蹴、渋々退職願も書かされての異動、また単身赴任となりました。

様々な使命を持つ附属中での勤務は、学校内外の職務にあたる中で自分の力のなさを思い知らされる毎日で、そのつらさから当初はここも『特別な学校』だからと自分に言い聞かせていました。

それから数年の後、教員になって10年以上もかかったわけですが、普通の学校なんてどこにもない、逃げで『特別な学校』と考えるのではなく、どの学校も唯一無二の『特別な学校』であると考えらるようになっていた自分がいました。

その後いくつかの学校や地教委で貴重な経験をさせていただきました。38年間の教職の中で、願ったかどうかは別として8回退職願を書き、D区分20年の勤務、様々な機会を与えていただき、多くの方々に支えていただきながら仕事をすることができたこと本当にありがたく思っています。

新しい年号は何となるのでしょうか、これからどんな時代、どんな学校になるのか楽しみです。

随想



福島県中学校長会副会長
小針 伸一
(福島市立福島第二中学校)

どんな時代になるのでしょうか